

農地等に関する意向調査について

令和3年3月
伊那市

① 意向調査の概要

1 調査の目的

伊那市では、急速に進む社会情勢の変動に対応するため、農業振興地域整備計画の見直しを進めており、今後おおむね10年後を見通した新たな農振計画を策定するにあたって伊那市の農業に対して広く意見を伺い参考とするため、意向調査（アンケート）を実施した。

2 意向調査概要

調査対象	見直し候補区域土地所有者等 1,666人
調査方法	アンケート方式
調査期間	令和3年1月から3月
有効回答数	851人
有効回答率	51%

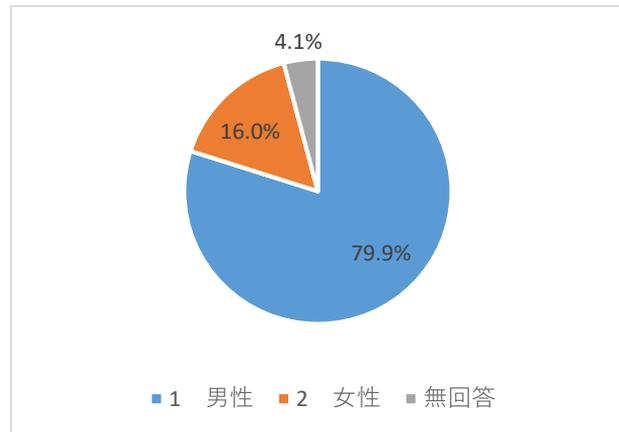
3 集計上の留意点

- (1) 設問中、指定された選択肢を超えて回答しているものについては、意見をなるべく尊重するため、複数回答を可として集計したものがあある。
- (2) 依頼した調査期間は、2月3日であったが、3月末までに届いた回答についてを集計した。

② 調査結果

問1-1 あなたの性別についておたずねします。該当する番号に○印をつけてください。

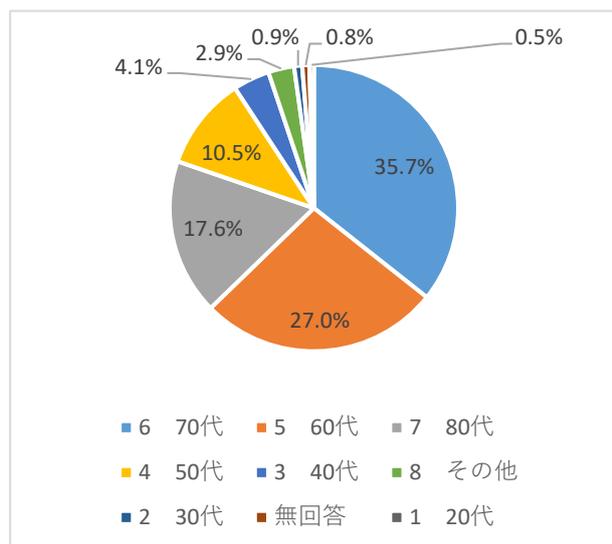
性別	件数	割合 (%)
1 男性	680	79.9%
2 女性	136	16.0%
無回答	35	4.1%
全体	851	100%



農地所有者、経営者は男性の割合が概ね8割であった。

問1-2 あなたの年齢についておたずねします。該当する番号に○印をつけてください。

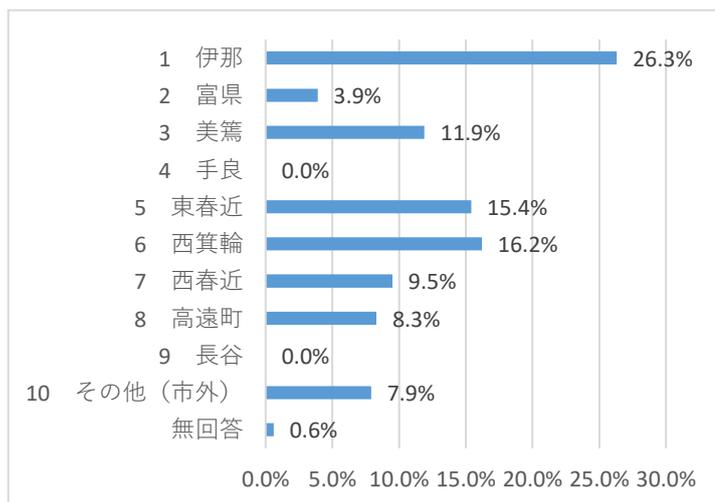
年齢	件数	割合 (%)
1 20代	4	0.5%
2 30代	8	0.9%
3 40代	35	4.1%
4 50代	89	10.5%
5 60代	230	27.0%
6 70代	303	35.7%
7 80代	150	17.6%
8 その他	25	2.9%
無回答	7	0.8%
全体	851	100%



60代から80代が全体の約8割を占めている。

問2 あなたのお住まいについておたずねします。該当する番号に○印をつけてください。

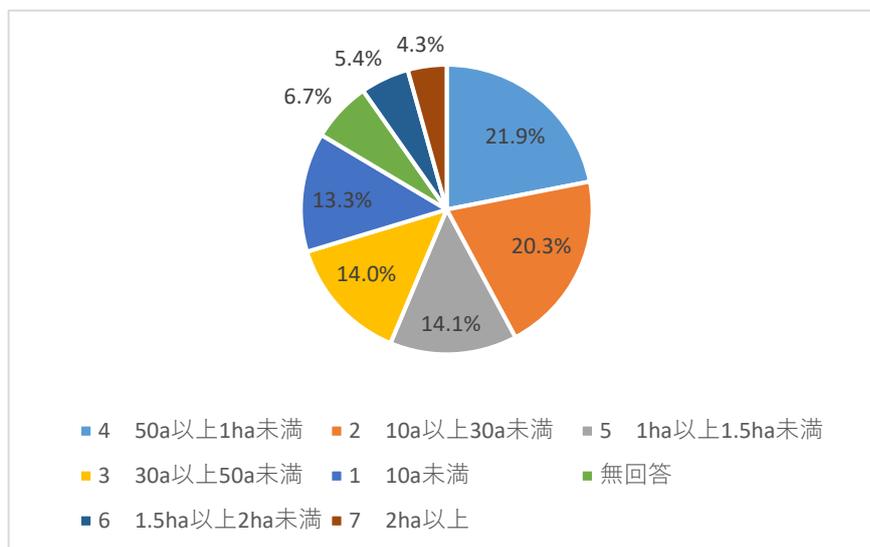
地区	件数	割合 (%)
1 伊那	224	26.3%
2 富県	33	3.9%
3 美篤	101	11.9%
4 手良	0	0.0%
5 東春近	131	15.4%
6 西箕輪	138	16.2%
7 西春近	81	9.5%
8 高遠町	71	8.3%
9 長谷	0	0.0%
10 その他(市外)	67	7.9%
無回答	5	0.6%
全体	851	100.0%



伊那地区が最も多く、次いで西箕輪地区、東春近地区となった。

問3 あなたの家の耕作面積は概ねどのくらいですか。該当する番号に○印付けてください。

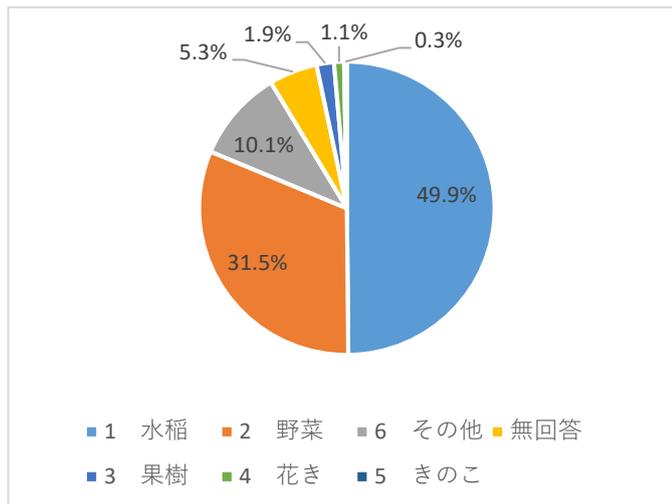
面積	件数	割合 (%)
1 10a未満	113	13.3%
2 10a以上30a未満	173	20.3%
3 30a以上50a未満	120	14.1%
4 50a以上1ha未満	186	21.9%
5 1ha以上1.5ha未満	121	14.2%
6 1.5ha以上2ha未満	46	5.4%
7 2ha以上	37	4.3%
無回答	55	6.5%
全体	851	100.0%



50a以上1ha未満がもっとも多く、次いで10a以上30a未満であった。

問4 あなたの家の主な農産物についておたずねします。該当する番号に○印をつけてください。

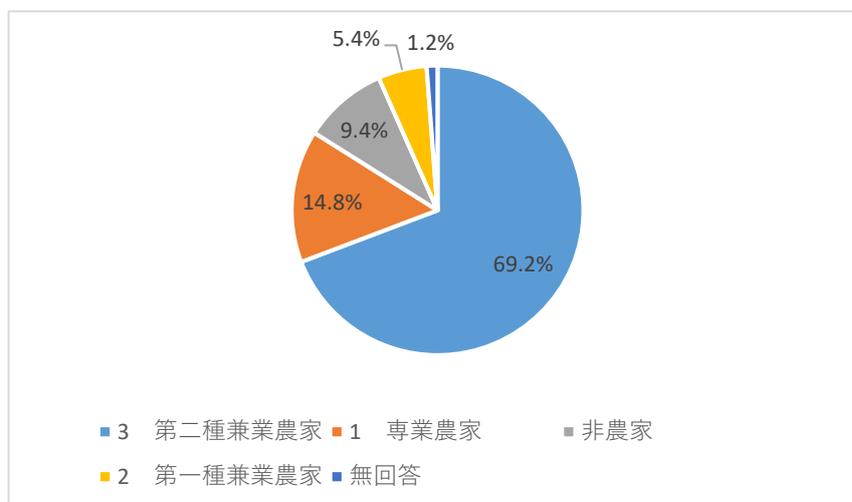
作物	件数	割合 (%)
1 水稲	529	49.9%
2 野菜	334	31.5%
3 果樹	20	1.9%
4 花き	12	1.1%
5 きのこと	3	0.3%
6 その他	107	10.1%
無回答	56	5.3%
全体	1061	100.0%



水稲が約5割を占め、次いで野菜が多かった。

問5 農業形態についておたずねします。該当する番号に○印をつけてください。

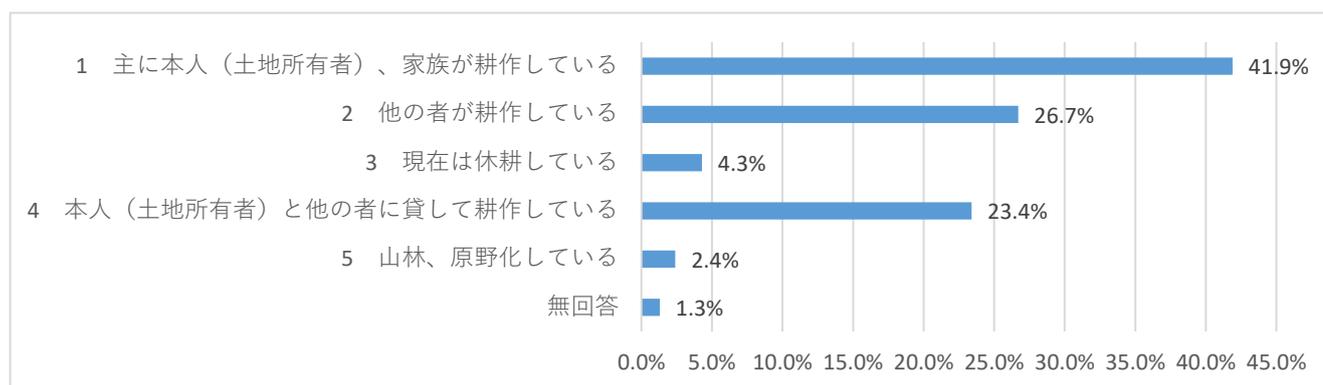
形態	件数	割合 (%)
1 専業農家	126	14.8%
2 第一種兼業農家	46	5.4%
3 第二種兼業農家	589	69.2%
無回答	10	1.2%
非農家	80	9.4%
全体	851	100.0%



第二種兼業農家が約7割を占め、次いで専業農家が多かった。

問6 あなたが所有されている農地についておたずねします。
耕作は主にどなたが行っておられますか。該当する番号に○印をつけてください。

耕作者	件数	割合 (%)
1 主に本人（土地所有者）、家族が耕作している	381	41.9%
2 他の者が耕作している	243	26.7%
3 現在は休耕している	39	4.3%
4 本人（土地所有者）と他の者に貸して耕作している	213	23.4%
5 山林、原野化している	22	2.4%
無回答	12	1.3%
全体	910	100.0%

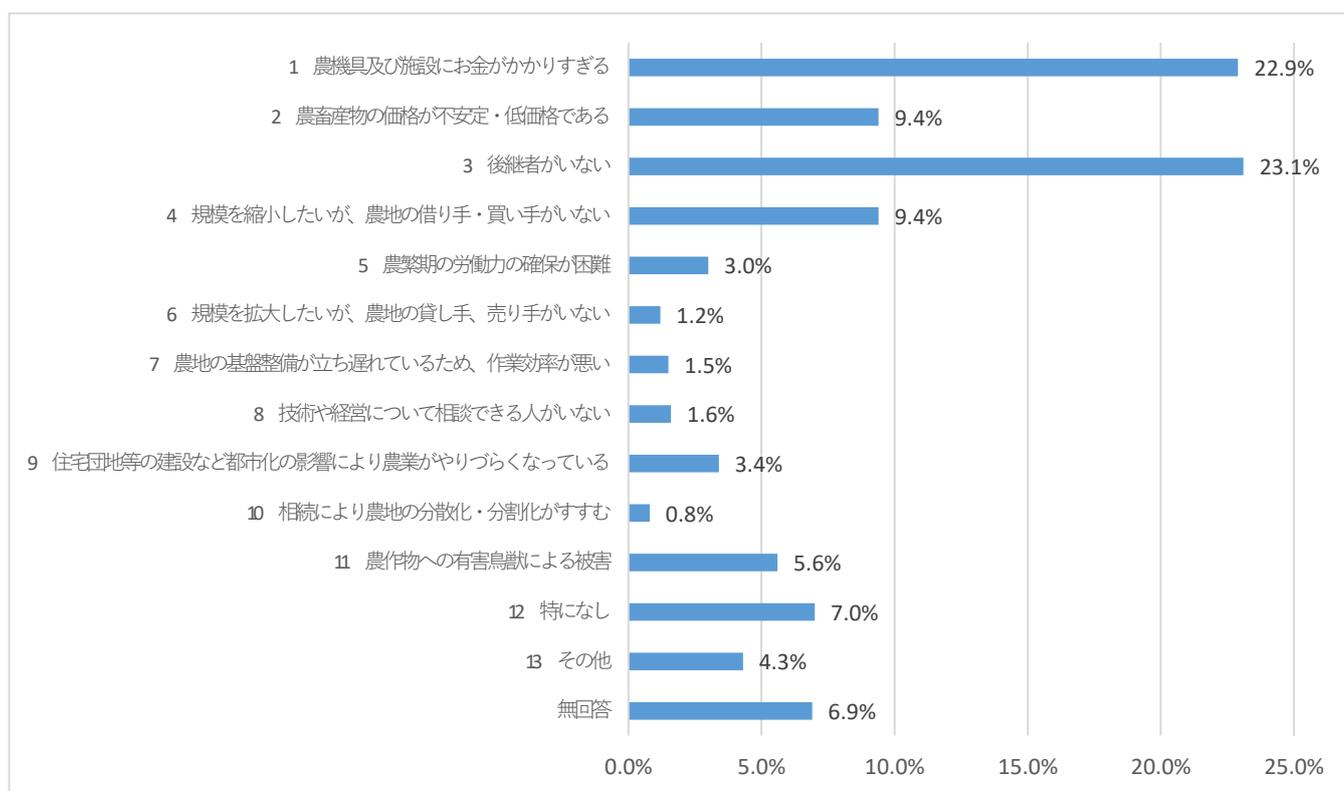


本人、家族が耕作しているが4割と多く、次いで本人と他の者が耕作しているが多かった。

問7 あなたが現在農業を続けるにあたり農業経営上困っておられることをおたずねします。

該当する番号に○印をつけてください。（複数回答可）

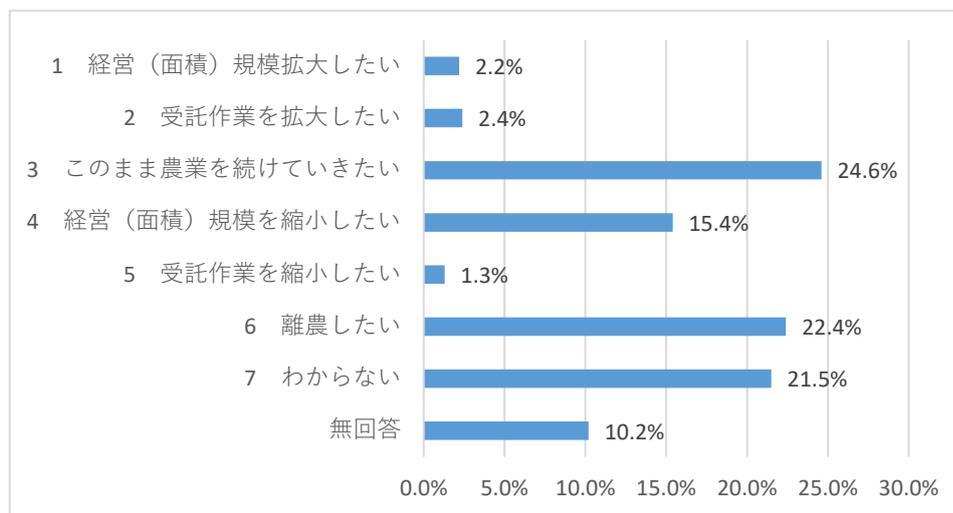
困っていること	件数	割合 (%)
1 農機具及び施設にお金がかかりすぎる	325	22.9%
2 農畜産物の価格が不安定・低価格である	133	9.4%
3 後継者がいない	328	23.1%
4 規模を縮小したいが、農地の借り手・買い手がない	133	9.4%
5 農繁期の労働力の確保が困難	42	3.0%
6 規模を拡大したいが、農地の貸し手、売り手がない	17	1.2%
7 農地の基盤整備が立ち遅れているため、作業効率が悪い	21	1.5%
8 技術や経営について相談できる人がいない	22	1.6%
9 住宅団地等の建設など都市化の影響により農業がやりづらくなっている	48	3.4%
10 相続により農地の分散化・分割化がすすむ	12	0.8%
11 農作物への有害鳥獣による被害	80	5.6%
12 特になし	99	7.0%
13 その他	61	4.3%
無回答	98	6.9%
全体	1419	100.0%



後継者がいない、農機具、施設にお金がかかりすぎるという回答が多かった。

問8 あなたは、将来（おおむね10年後）農業を続けていきたいと考えておられますか。
該当する番号に○印をつけてください。

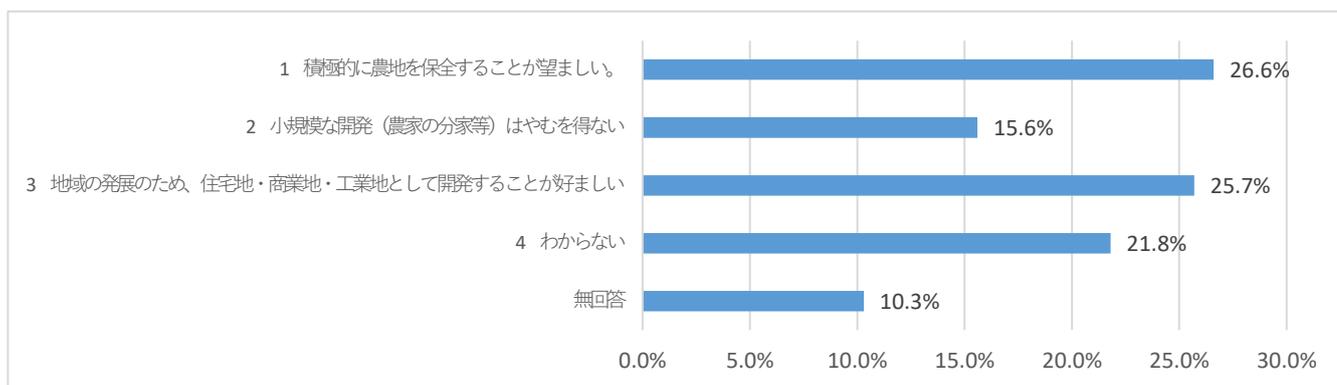
今後の意向	件数	割合 (%)
1 経営（面積）規模拡大したい	19	2.2%
2 受託作業を拡大したい	21	2.4%
3 このまま農業を続けていきたい	215	24.6%
4 経営（面積）規模を縮小したい	135	15.4%
5 受託作業を縮小したい	11	1.3%
6 離農したい	196	22.4%
7 わからない	188	21.5%
無回答	89	10.2%
全体	874	100.0%



農業を続けていきたいと離農したいが概ね同率となった。

問9 あなたは、将来の農地の保全や活用についてどのようにお考えですか。 該
 当する番号に○印をつけてください。

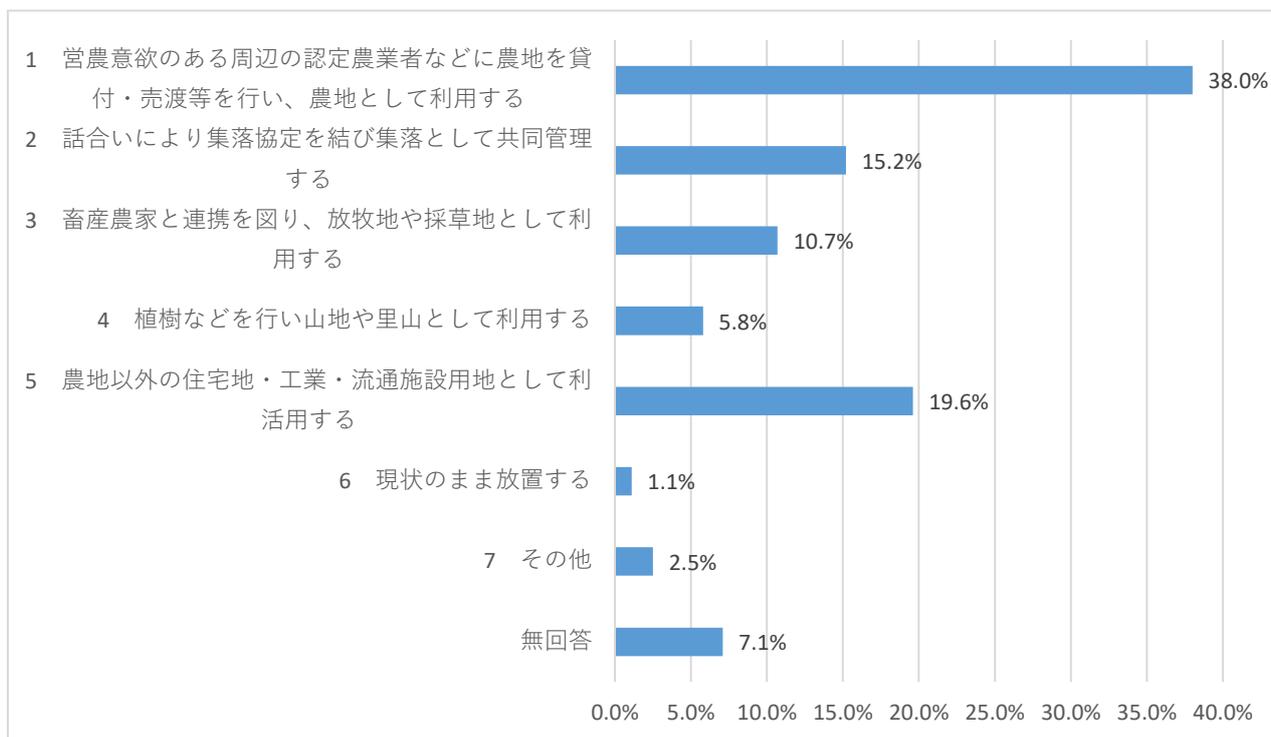
今後の考え	件数	割合 (%)
1 積極的に農地を保全することが望ましい。	230	26.6%
2 小規模な開発（農家の分家等）はやむを得ない	135	15.6%
3 地域の発展のため、住宅地・商業地・工業地として開発することが好ましい	222	25.7%
4 わからない	188	21.8%
無回答	89	10.3%
全体	864	100.0%



農地の保全を望むと宅地化を望む回答が過半数を占めた。

問10 現在、伊那市には約230ヘクタールの荒廃農地が存在します。それらを解消するにはどのような方策が必要とお考えですか。該当する番号に○印をつけてください。（複数回答可）

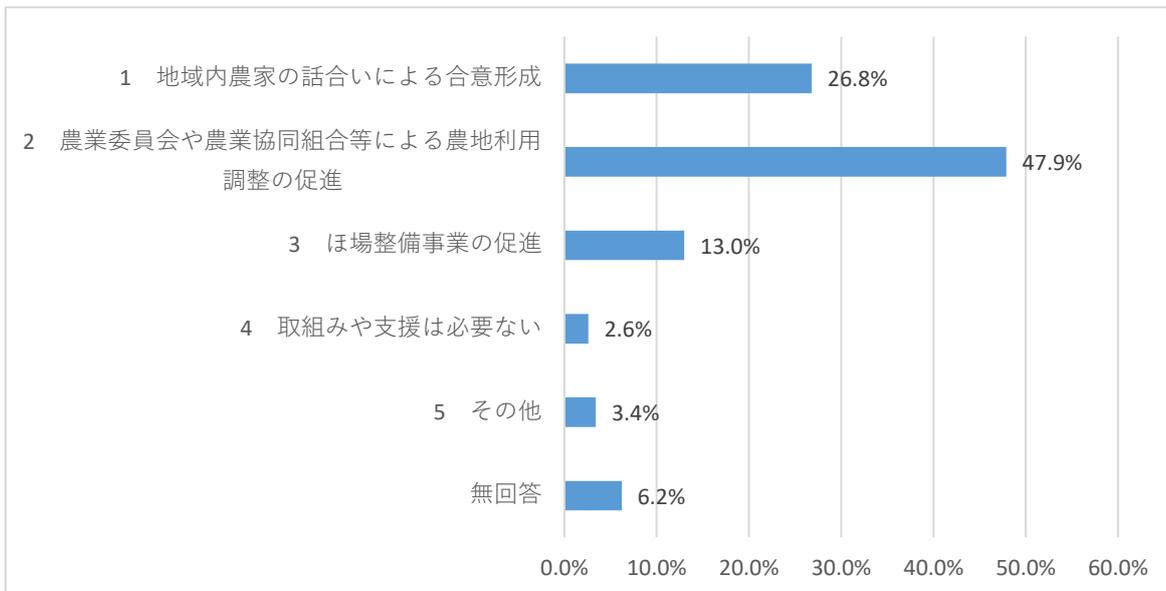
方策	件数	割合 (%)
1 営農意欲のある周辺の認定農業者などに農地を貸付・売渡等を行い、農地として利用する	488	38.0%
2 話し合いにより集落協定を結び集落として共同管理する	195	15.2%
3 畜産農家と連携を図り、放牧地や採草地として利用する	137	10.7%
4 植樹などを行い山地や里山として利用する	75	5.8%
5 農地以外の住宅地・工業・流通施設用地として利活用する	251	19.6%
6 現状のまま放置する	14	1.1%
7 その他	32	2.5%
無回答	91	7.1%
全体	1283	100.0%



営農意欲のある方等への貸付、売却をし農地として利用する回答が多かった。

問11 農業者の高齢化や後継者不足のため、耕作放棄地が増加傾向にあります。これを解決するひとつの手段として、散在する農地をまとめ機械作業による効率化を高めていくことが考えられます。その手段として考えられるものの番号に○印をつけてください。（複数回答可）

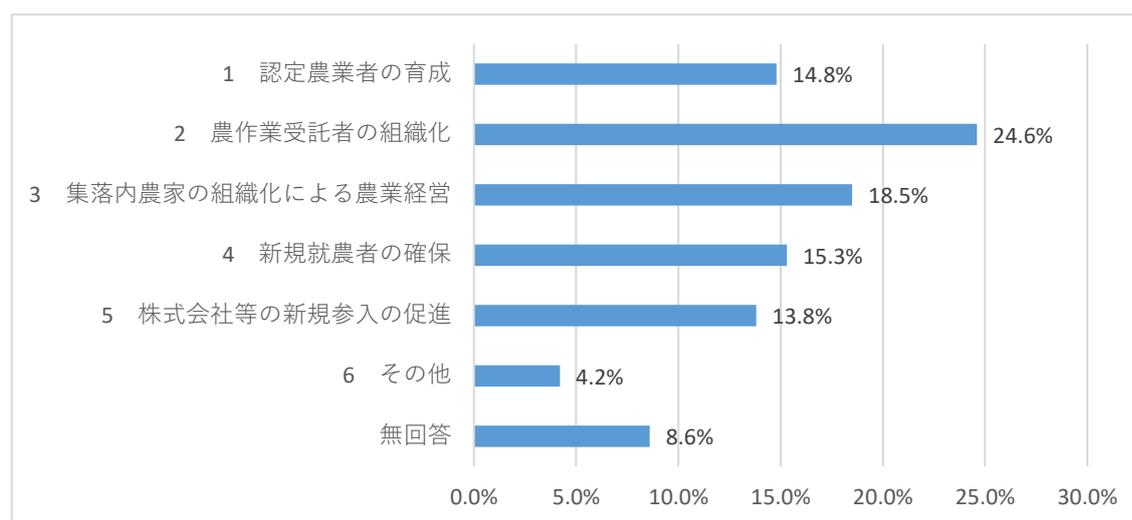
手段	件数	割合 (%)
1 地域内農家の話し合いによる合意形成	305	26.8%
2 農業委員会や農業協同組合等による農地利用調整の促進	545	47.9%
3 ほ場整備事業の促進	148	13.0%
4 取組みや支援は必要ない	29	2.6%
5 その他	39	3.4%
無回答	71	6.2%
全体	1137	100.0%



農業委員会や農業協同組合による調整促進を望む回答が約半数を占めた。

問12 農業者の高齢化や後継者不足により担い手の育成・確保が課題となっています。課題解決のため最も良いと思われる番号に○印をつけてください。

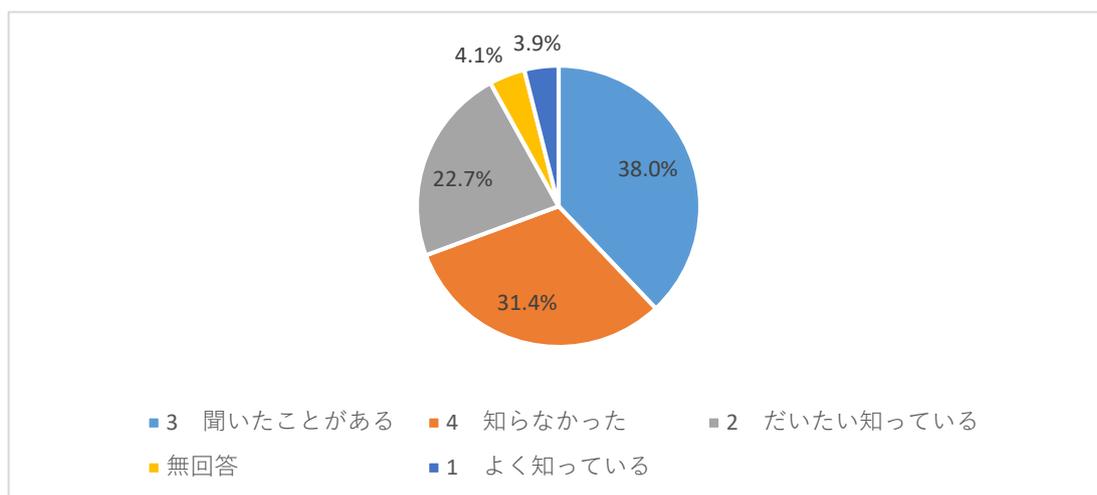
解決策	件数	割合 (%)
1 認定農業者の育成	148	14.8%
2 農作業受託者の組織化	246	24.6%
3 集落内農家の組織化による農業経営	185	18.5%
4 新規就農者の確保	153	15.3%
5 株式会社等の新規参入の促進	138	13.8%
6 その他	42	4.2%
無回答	86	8.6%
全体	998	100.0%



農作業受委託の組織化が多いが、その他の意見も多くありバラつきがあった。

問13 農業振興地域整備計画は、優良な農地を確保・保全するとともに、農業振興のための各種施策を計画的かつ集中的に実施するため市町村が定める総合的な農業振興の計画です。あなたは、この農業振興地域整備計画の制度の内容をご存知ですか。該当する番号に○印をつけてください。

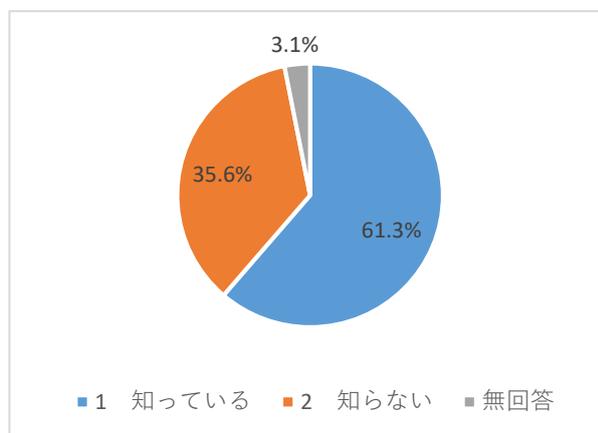
回答	件数	割合 (%)
1 よく知っている	33	3.9%
2 だいたい知っている	193	22.7%
3 聞いたことがある	323	38.0%
4 知らなかった	267	31.4%
無回答	35	4.1%
全体	851	100.0%



聞いたことがある、知らなかったという回答が約7割を占めた。

問14 あなたの所有している土地もしくは借りて耕作している農地が、農業振興地域（農用地）にあるのか、または農業振興地域外にあるのかご存知ですか。該当する番号に○印をつけてください。

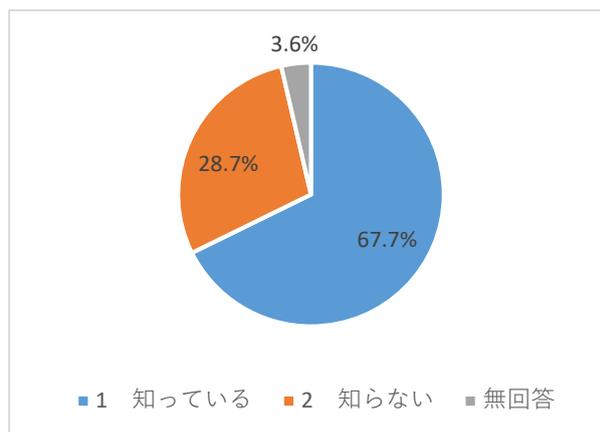
回答	件数	割合 (%)
1 知っている	522	61.3%
2 知らない	303	35.6%
無回答	26	3.1%
全体	851	100.0%



知っているという回答が約6割を占めた。

問15 その農地が農業振興地域（農用地）である場合、農地以外の用途にするには一定の制限があります。このことをあなたは、ご存知でしたか。該当する番号に○印をつけてください。

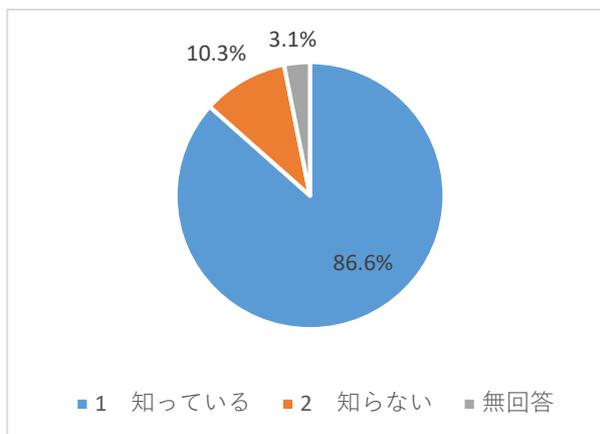
回答	件数	割合 (%)
1 知っている	576	67.7%
2 知らない	244	28.7%
無回答	31	3.6%
全体	851	100.0%



知っているという回答が約7割を占めた。

問16 農家住宅などを建築する場合、農地転用許可を受けなければなりません。あなたはこのことをご存知でしたか。該当する番号に○印をつけてください。

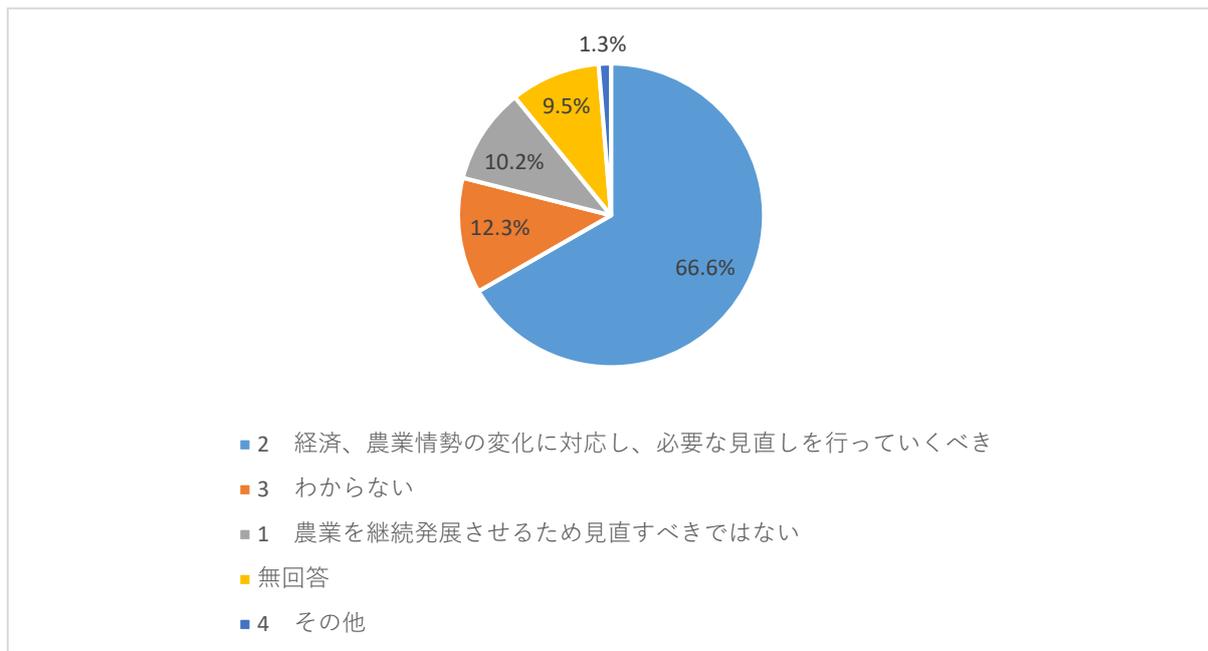
回答	件数	割合 (%)
1 知っている	737	86.6%
2 知らない	88	10.3%
無回答	26	3.1%
全体	851	100.0%



知っているという回答が約9割を占めた。

問17 農業振興地域（農用地）を、工業・流通施設や住宅を誘致するために、除外する見直しをすることについてあなたはどのように思いますか。

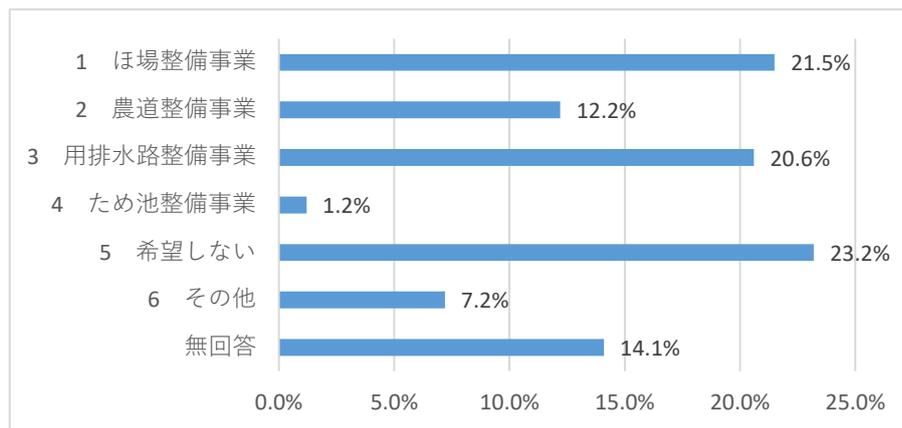
回答	件数	割合（％）
1 農業を継続発展させるため見直すべきではない	87	10.2%
2 経済、農業情勢の変化に対応し、必要な見直しを行っていくべき	567	66.6%
3 わからない	105	12.3%
4 その他	11	1.3%
無回答	81	9.5%
全体	851	100.0%



見直しを行っていくべきという回答が約7割を占めた。

問18 あなたの耕作地周辺でどのような土地基盤整備事業をすれば営農が向上すると思われますか。該当する番号に○印をつけてください。（複数回答可）

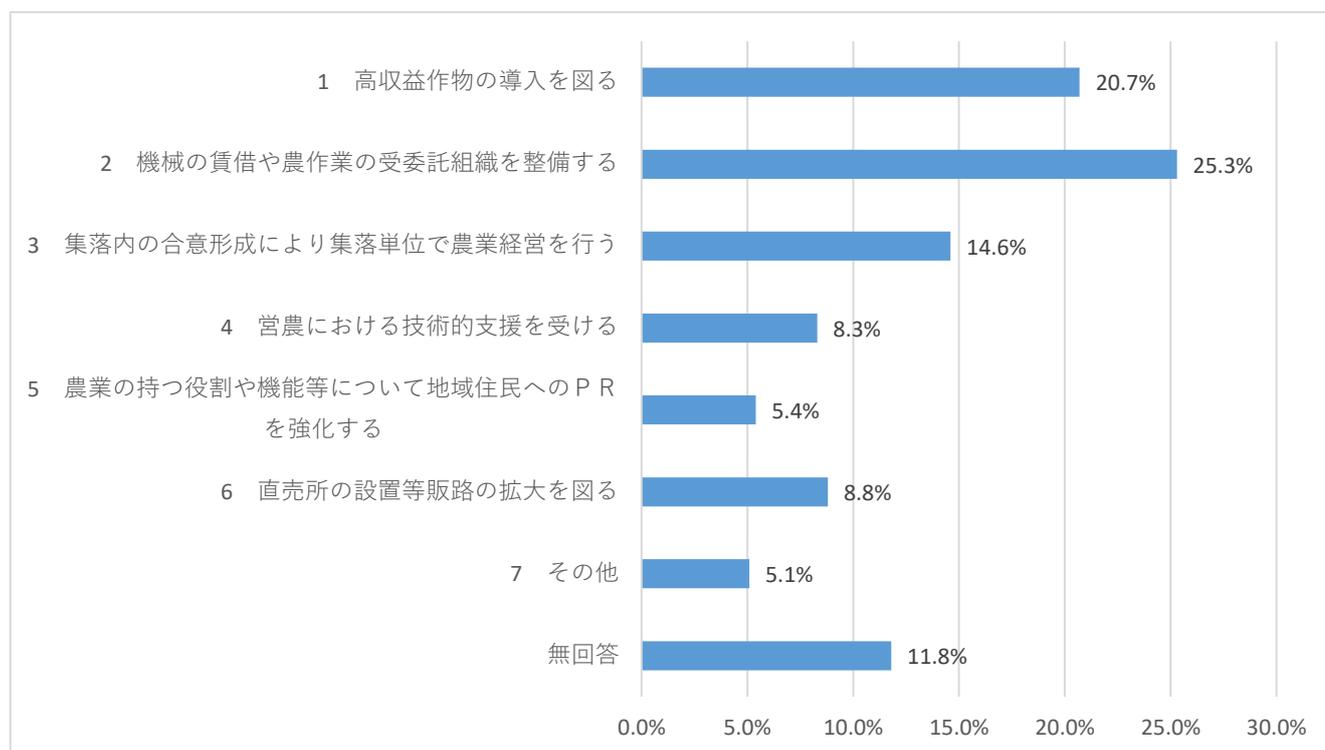
事業	件数	割合 (%)
1 ほ場整備事業	224	21.5%
2 農道整備事業	127	12.2%
3 用排水路整備事業	215	20.6%
4 ため池整備事業	13	1.2%
5 希望しない	242	23.2%
6 その他	75	7.2%
無回答	147	14.1%
全体	1043	100.0%



希望しないが一番多く、次いで圃場整備事業が多かった。

問19 あなたのお住まいの地域の農業の発展・活性化を図るためにはどのようなことが大切であるとお考えですか。該当する番号に○印をつけてください。（複数回答可）

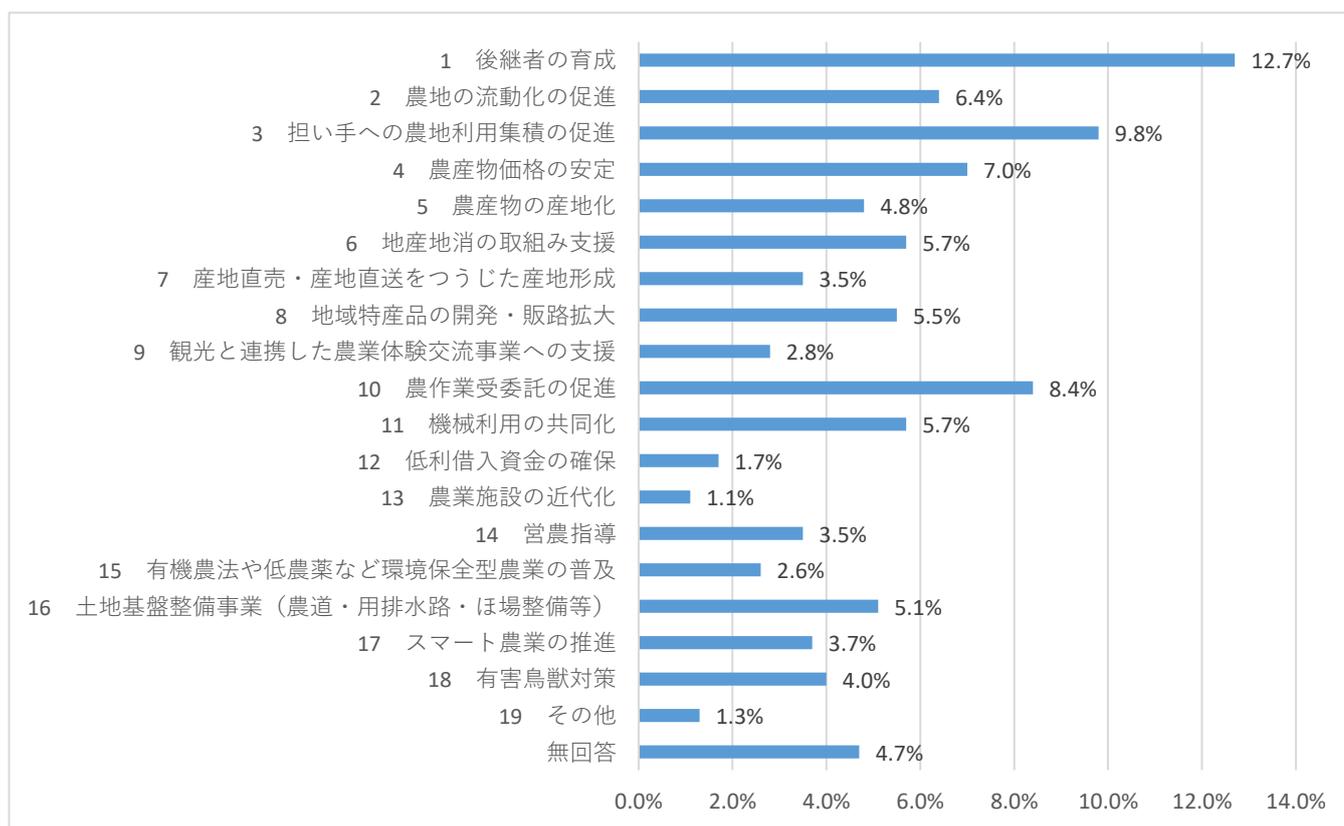
回答	件数	割合 (%)
1 高収益作物の導入を図る	276	20.7%
2 機械の賃借や農作業の受委託組織を整備する	337	25.3%
3 集落内の合意形成により集落単位で農業経営を行う	195	14.6%
4 営農における技術的支援を受ける	111	8.3%
5 農業の持つ役割や機能等について地域住民へのPRを強化する	72	5.4%
6 直売所の設置等販路の拡大を図る	117	8.8%
7 その他	68	5.1%
無回答	158	11.8%
全体	1334	100.0%



機械の賃借や農作業の受委託を図るが多く、次いで高収益作物の導入を図るが多かった。

問20 今後の伊那市の農業政策へのご要望について、該当する番号に○印をつけてください。（複数回答可）

回答	件数	割合 (%)
1 後継者の育成	334	12.7%
2 農地の流動化の促進	168	6.4%
3 担い手への農地利用集積の促進	257	9.8%
4 農産物価格の安定	183	7.0%
5 農産物の産地化	127	4.8%
6 地産地消の取組み支援	150	5.7%
7 産地直売・産地直送をつうじた産地形成	92	3.5%
8 地域特産品の開発・販路拡大	144	5.5%
9 観光と連携した農業体験交流事業への支援	74	2.8%
10 農作業受委託の促進	222	8.4%
11 機械利用の共同化	150	5.7%
12 低利借入資金の確保	46	1.7%
13 農業施設の近代化	30	1.1%
14 営農指導	91	3.5%
15 有機農法や低農薬など環境保全型農業の普及	68	2.6%
16 土地基盤整備事業（農道・用排水路・ほ場整備等）	135	5.1%
17 スマート農業の推進	98	3.7%
18 有害鳥獣対策	105	4.0%
19 その他	34	1.3%
無回答	124	4.7%
全体	2632	100.0%



後継者の育成が一番多く、次いで担い手への農地利用集積の促進が多かった。

問21 その他、自由意見

私も高齢でどなたかに委託したいと思っておりますが、農協によると委託先はいっぱいで、これ以上引き受けられないようです。（近所の方の話です）これも農業の担い手不足からと思います。

私は農業後継者がいません。よって農業に関して多くを語る事が出来ません。親から引き継いで来た、水田、山林をどう処理するかが悩みでいっぱいです。

私は85歳、体力も限界に近い。子供は農業をする気もないし、させたいと思わない。地区内の他家も後継者がいないようだ。当地区の優良農地が荒れてしまうのではないかと心配している。

私の農業は家庭消費野菜だけで今後についてはまったく先がわかりません。健康のうちは家族で家で食べれるだけの野菜作りをしていきたいと思っております。

私の体の動くうちは続けるつもりですが後のことはわからない

わからなくてすみません。

我が家は120坪の家庭菜園です。子供達は農地利用に関心がなく、県外に居住のため、除草等、管理に不安です。（近隣の人に迷惑をかける）。この程度の広さの農地の活用、趣味として利用する人を市としてもPRしてほしい。コロナを期に野菜作りにも関心が高まっているのは良い傾向です。

我が家でもそうですが、回りをみても後継者がいない。今は個人に委託して耕作してもらっているが、いつまで続くかわからない。受託者を組織化にして安定した経営をしてもらいたい

より効率的な農業への転換のために農地の集約、大規模化、ITによる管理の方向性は致し方ない方向と考えます。一方、定年帰農や定年後も兼業として農地の維持管理を行う等の形態もあります。定年帰農や定年後も兼業としての農業では、農業機械の購入には限度があり、体力面での制約、農業にかけられる時間の長さなど、農業収益をあげるため作付けや農産物の販売まで手が及ばず、無農薬での小規模栽培、また空いた農地は、耕運や草刈りなど農地を荒らさないための管理を実施して、環境の保全、農地保全に取り組んでいる状況もあります。農業の大規模化のみならず、様々なやり方で取り組んでいる農地の保全活動に対して補助金の制度を充実して頂きたいと思っております。

世の人々が平和に生きてゆくには食べ物お腹に十分入ることだと思います。燐酸等輸入に頼るのみでは心配です。小さな農家も大切に思ってください。

優良農地は虫食い状態にせず食糧に使う日本自給率向上に貢献してほしい。若者に植物他についての科学や面白さを実感できる教育が必要ではないかと思う。農業で生きていける道はあると思います。

有効利用（農地か公地化など）をし、現在の農家の二男、三男2世代住宅などに協力し家族を増やすことに、また家庭農地を増やし兼業農家を大切に地域住民を増やし保育園・小学校・中学校を守りUターン住民に協力してほしい。農地を守っても住民がいなければ～ナンセンス～

やってみて、楽しく、儲かる、生きがいのある近代化農業であればよいのだが、仲々難しい。ただ、農業は一生現役でやれるし、コロナ禍の中でも唯一生き残れる仕事だと思う。

申し訳ありません。他県で親戚に耕作して頂いております。今後どうするか思案中です。

面積が広い農地を、将来的に守る方策も必要だと思いますが、例えば山間地で里山の景観となっている面積が広くない農地を将来的に守るため、プロジェクトを大きく2つに分けてそれぞれの専門的な取り組みが必要だと思います。集約化されても、なお残ってしまう小さい面積の農地が点在していても、それぞれが里山を保全している大切なものであるという認識のもと、ぜひ専属的・持続的な取り組みのプロジェクトの立ち上げをと望みます。

民間企業の力を借りても農産物のブランド化を達成しなければ生き残れないと思う

昔のように家族総出で苗を作り、稲刈りをする時代でなくなっています。つまり子供達は農業に接しないという事です。その子供達が、自立して農業を継ぐことは考えにくいと思います。その上、JAが営農を縮小し、金融に向いているように見受けられる状況下、山林と同様に田んぼが負の資産化することが心配です。10年くらいは百姓できますが、その先は・・・です。乱筆、乱文で失礼しました。
民間企業も異業種への参入を検討しているところもあります。民間企業複数社の出資や定年後の働き口の確保や社員向けの農産物の割引提供、社員食堂での地元食材利用、六次産業化による関連雇用拡大など、市と地元企業、JAが連携もしくは共同事業体を組んで対応するなどができたら良いのでは。農業分野を次の分野と考えている企業は多いのでは。私の立場上もそう感じます。
南箕輪は農振地域の除外（道路の両側）したことにより、宅地が建ち商業施設も増加し活性化している所もあるし、人口も増えている。住宅を誘致出来そうな場所については農振除外の見直しを推進していくべきである。
まったく興味が無いので、何とも言えない
毎年牧草用地として貸し出している
補助金等行政からの発信なにかあるのかわからない。専業農を特にしかり把握してそこだけでも流すべし。コロナの時特にそれだけのものがあるのでは？
圃場整備をした1枚の水田を2人が分割して耕作しているが、片方が休耕している水田が数多くみられる。1人に集約して耕作するよう借手などの流動を図る。
他の市町村にくらべて転用が遅れている。（春日街道、伊那IC）上伊那中央病院周辺。
法人みずずでは法人の部下組織として、農業者と一般の住民（定年退職者他）が協同（作業分担）で農地の耕作管理してます。作業時間に対して日当支払いしてます。この様な組織を各地域に立ち上げるにより耕作放棄地の解消にも役立っています
ふるりの姿が変わるのさみしいが、地域の発展のためにやむを得ない。人口減少の中で難しい事ばかりですが100年後を見通したすばらしい計画を立ててください。蛇足：文章の大きさを考えてください。
品種改良における高食味化推進事業などの訴求を有する特徴の創造を図る。信大とのコラボによる商標化可能な農産物の研究・開発。
非農地ですのでいろいろのシステムがわかりません。申し訳ないです。
東春近の東原地区－耕作条件が悪い。今、構造改善の話が出ているようですが、皆さんでよく話し合い、将来を考えて、うまくまとめてほしいと思う。＊個人の所有はないが作業の手伝い等の時改善の必要性を強く感じた。
畑（田んぼ）への道が狭いため、普通トラックが通りにくい。道を広げれば農地の利用の仕方が広がるだろうと思います。上荒井地区、地域の人に10aの土地の処分をお願いしたら10万円でやってくれるとのこと。これではあんまりです。このところ体調がすぐれずにて期限を大変おくらせてしまいました。すみませんでした。没にしてもけっこうでございます。（2月14日）
ハタカン事業(国営)の開始されたころは前途明るい見通しがあったがもしれませんが、この事業を今の若人が活用すべき作物の取り組みをしている人が何人いるのか？今私は農業をしていません。親がこの時どういう気持ちで賛成したか？伊那市西部でハタカン事業に「金」が非常にかかりお荷物となっております。この先ただ賦課金を支払うのは大変苦です。脱退も考えてます。
農用地から外し老健施設などの建設を望む
農道に一般車が入らないようにしてほしい。
農地を売りたいが買い手がない。特に山林（3反歩）

農地を売却したく、長らく希望を出していますが、買い手がつきません。売却希望や活用されていない土地を伊那市や関連団体が一括して買い上げ、農地または他の用地に整備して運営・貸し出しすることで、土地の有効活用ができるのではないのでしょうか。
農地を相続しても、他の職業についていると耕作が不可能なため、そうした耕地を長期にわたって、安定的に耕作し農地を荒らさない体制、組織、制度を整備するとともに、営農希望者を積極的に募集・育成し、農業に従事できる仕組み・政策を希望します
農地を整備計画をして効率化を計ることは理解できますが、全国をみると米が余っているとのこと、農地整備・改革も以前やっており、また後継者もないのに整備計画を出されても個人にその金銭的負担がかかるのではと心配しているところです。農地転用の困難さはわかりますが、工事・商業への転用を望むところ。本当に大変な調査、ご苦労様です。
農地を所有していますが、伊那に住んでおらず、また借り手・買手がいないため、休耕地になっています。従って問い4.5.7.8.18は回答していませんのでよろしくをお願いします。
農地保全活動に支援を強めてほしい
農地の有効性についてのPR
農地の貸借売買の情報を公的にしらせて（細かく）ほしい。（農業意欲のある方もいると思います）
農地の一部を納税猶予制度を適用していますが、この制度が緩和されて賃貸借ができるよう法の改正を望んでいます。
農地での相続税・納税猶予の条件として「一生耕作を続ける」様に変更された。・・・従来の「20年・・・」に戻してほしい。
農地貸付料が安すぎる
農地があっても作れる人がいないので農業法人にお願いしています。農業のことはよくわかりません。
農地があっても後継者もない。農業機械もないので営農対策が必要。
農地（畑・田）売りたい
農地（近くの道路等）へのゴミ不法にすてる人をアピール等によりなくしてほしい。草刈等により牧草ロールにはいつてしまい困っています。横山北西にいるシカ対策（メス1頭）
農振の指定により、住宅地の近くなのに家が建てられないなどの話を耳にします。現状にあったあ地域の見直しは必要だと思います。
農振除外を簡素にする事
農作物を作る農地はあったほうが良いと思う。積極的利用だけでなく治山治水の目的は重要である。但し転用目的もケースごとに認めることも必要ではないかと思う。
農作業、田耕し等、道路への土の落下など作業しにくくなっている。草刈機等の音の問題苦情につながる
農業をするにはJAの協力がないと難しい状況です。いろいろな制度などが複雑であり、また水路管理など地区内でも作業や負担があるので新しい担い手の障害になっていると思います。
農業は人が命をつないでいくための基盤であることを肝に命じ、みんな（地域）で力を合わせ守っていきたい。
農業のみでなく都市計画・税制等も考えていかないと難しい。市のみで考えても困難が多い。
農業を事業として考える。企業と同じように考える。

農業問題の検討はもう10-20年も遅いですが、今迄農地の転用には色々苦労してきましたが、不可になったことも色々ありました。今でも許可に何年もならないものもあります。私も色々意見がありますが、もう元気がない年齢です。積極的に意見を出して参画ができませんので勘弁してください。今迄色々苦労してきました。

農業は林業・漁業とも関連した多面的機能の大きい一次産業であり、古来、国民の心の拠り所として、文化の基礎をなしてきた。しかし、20世紀後半からは国民総生産額が低いこと、バーター貿易による農産物輸入と農産物価格の国際競争などにより、食糧自給率が低下し続け、農業軽視の傾向が強まってきた。そのため、歴代の政府は農業支援を続けてきたものの商工業優先・財界重視政策の下では効果が少なく、後継者不足と農地転用が進み、日本の農業は危機的な状況に追いやられている。世界の人口増加、各国の食糧輸入増加、地球の温暖化、世界的な農地疲弊、コロナによる食糧の輸出入減少などに鑑み、食糧自給率の向上を図って食糧安保に実効のある支援を実現する必要がある。農業は国の根幹。先進国といえども、食うものなくして国の独立はありえない。

農業は嫁家族が耕作しているので今のところ特に問題はない。

農業は水稻小麦の穀類を作っていたのでは収入の確保は望めない。かといって野菜果樹を作る体力気力がない。私は「法人はるちか」の組合に参加し、2ha分の土手草刈りをやっています。営農組合員が高齢化、後継ぎがないなどで私のところへだんだんと土手草刈り、水稻水利管理の依頼が増えてきました。腰・ひざが痛いですが、いつまで続くかお先真っ暗です。私の息子も農業はやる気なし。土日休日に野良仕事して米や野菜を食べる必要なしと割り切っています。地域が耕作放棄地が増加しても、食い止める妙案が私に思い浮かばないです。

農業の最大のネックは後継者がいないことである。その解消のために地域の組織化を充実・拡大する。さらに進めてスマート農業を推進し、安定的な収入を確保することである。他の業界と同じように子供を教育し大学まで出来、合理的な日常生活を送れる魅力ある農業にすべきと考える。

農業の高齢化が進み米は安く農機は高く米農家は若い者はだれもしたくない状態だ。農振を外した地区（福島）などは区も豊かであり農振を外し事業者に来てもらいたい。コロナで時にダメだと思うが。

農協のあり方を見直す。現状、農業のため農協ではなくて金融に力を入れすぎて、農業に目が向いていない。農協は農家のことを考えず、農協のことしか考えていない。

農業に未来はない。自給率を上げる政策を。

農業に対して一番強く感じてることは土地はあっても作ってなくて収入がない場合でも水利費・土手の草刈りなどたくさんのお金が出て作ってる人はいいですが、その点今は土地がないほうが楽と強く感じます。

農業に従事していませんので、必ずしも適切なお答えが出来たかわかりませんが、ご参考になれば幸いです。

農業ではたべていられない。農業振興地を自由に宅地化できるようにしてほしい。

農業だけで生計を立て様とするには設備などお金がかかりすぎると思います。もっと手軽に農業に飛び込めるようなシステムがあれば良いと思うのですが。

農業振興という見地からすれば、そもそも自分の目的は趣味で営利を目的にせず野菜を作って家族で食べるという範疇なので農業に対する概念も・・・然りである。

農業振興地域を解除してほしい。宅地として売れない。農地が広くないので借り手がない。

農業振興地域計画事業は良く理解できていませんが、伊那中央病院建設後解除されると思っていました。今でも農振が解除されてほしいと思っています。

農業振興地域から外してください

農業所得の安定（農業を普通の時間で終わりにできるように、そして所得を安心して生活ができるようになったらいいと思います
農業所得で生計を維持するのは難しい
農業者の高齢化、後継者不足、担い手不足で放棄農地が増えているのは土地改の役員をしていて実感している。これからは農家個々に経営するのではなく、地域、土地改などでの協同経営を進めるのが農業を守る方法と考える。
農協支所の営農課がなくなり相談等ができなくなった。市とJAが協力して営農活動を行ってほしい。
農業機械は高価なため補助金制度を拡充してほしい
農業が時代の変化に対応していない。核家族化や職業選択の多様化により、一度地元を離れてしまうと、戻った際農業の知識（生産～出荷）を独学で習得するにはハードルが高い。モデルケースや作業の標準化を紹介してほしいです。
農家と言っても専業など見当たらず。第一種もほとんどない。第二種が9割方と思う。その中では今後の農業の見通しがたない。唯一の農産物の米作りは今後消費量も減ると考える。今後、東北・北海道地方は安い米を増産するだろうし、こちらが多額の経費を投入して農地改良しても追いつかないだろう。それでは他の作物を考えても見当たらず。何しろ農業の後継者がいない。退職した者が集まり法人経営しても先が知れている。何しろ耕作放棄地が増えるばかりである。不在地主もあり後継者もなく農地を持っているのがお荷物という人もいて寄付したいと言う声も聞く。そこで一計であるが、無償譲渡の土地を行政で受け取る制度を提案する。その土地を意欲ある農業経営者に行政で振り分ける制度をぜひ確立してほしい。
農家自身が自分の財産を守る。責任をもって子・孫まで継いでも様に（継いでもらうように？）考え教えた方が良くはないか？前に書いてあることをすれば良い面、悪い面が来てと思ひ、ともに荒廃地がますます増えるのではないか。認定農業者も規模拡大してもいつかは出来なくその時はどうする。地域ぐるみで取組をする、会社の定年近くになった人々に協力をし地域ごとに作業をする方が良くはないか？
担い手が農業に携わっても生活ができるような組織をつくらないと担い手はできないと思います。
担い手育成に対し、収入の確保と保障。農業への希望がもてなければ後継していくこともできない。
となりの畑が荒廃農地です。持主に話をするんですけど相手にされません。市でなんとかありませんか？道路の草刈りもしませんので地区または自分で草刈りをします。たいへん迷惑です。何とかしてください。
土地をまばらに売っているので農作業をととてもやりにくい。臭いや煙、音等を気にしながら作業をする為に効率が良くない（文句を言われる事もあり）住宅地と農地の区別をしっかりと分けないとこれからはもっとやりにくくなると思います。
土地はあるが農業してないのでわからない
土地改良賦課金が大きな負担となっている。これでは農地を持っていることが不可能である。
土地改の水利負担金はいつまで続くのか→早く終了させてほしい。耕作していないので負担を感じる。
当地域は都市計画区域内にあり、土地（水田）が細分化し（10a以内が多い）耕作に苦勞している。又近隣農地所有者は高齢化が進み、後継者該当者は都会にて居住、就職している家が多く次世代への農地としての継承は難しくなっている。特に女性のみとなった家では委託作業もままならず、数年後にはどうなるか心配である。農家組合も役員の選出に苦勞しており、数年後どうなるのか？
東京での生活が長く年齢も60代で農業などはもう無理と考えている。抱えている土地、家屋など税金のみ支払っている状況が継続している。不動産ではなく負動産となっており、どうにもならない状況で八方塞がりである。

転職して農業で食べていけないと思うので相談や営農指導してもらえたらいいんじゃないかと思いますが。
地域によっては大型機械の入らない 耕作するに大変である。土地基盤整備により大型機械作業が出来るようにし道路・水路の整備などが必要である。土地基盤整備・スマート農業を考えるに資金面で難しいのではないかと思う
地域に田園風景を確保し次代に繋げていきたい。農業は人を作り風土を作る。伊那市は農業工業商業のバランスのとれた未来を創り次代に繋げるビジョンを掲げてほしい。
地域的なため、圃場が狭く（段近等で）耕作がしづらいことと借り手がない。小さな圃場を集合し借り手があるような状態が望ましいと思う。
地域振興のため農振を外すことも柔軟に考える必要がある。ぜひお願いしたい。
段々に高齢化して思考能力がなくなります。あと数年は現状で頑張っていきたいです。
宅地の隣にある少しの農地ですので回答がうまく答えられなくすみません。
他業種定年退職後、集落で老後、皆で楽しく、できる農業。皆で農地を守り。
大変申し訳ないのですが、亡弟から田んぼのことを聞いていませんので、何人の方が作ってくださっているのか、田がどの様な形になっているのかもわかりませんので、下牧の田は何人かの方で作っていただいていることだけしかわかりません。おそい返信ですみません。
大規模農家を育成し、農業の大型化を促進する。貸主への還元を厚くすることで更に大規模に拍車がかかる。
大規模耕地による高収益が集約農業で安全・安心な農作物を消費者に提供するのが二分化するのでは 安全安心製法にももっと支援が必要と思いますが
その場所に住んでないので何とも言えません。お任せします。
相続により農地を取得したが、遠方に在住のため、営農することができず、他の方に耕作をしていただいている。私のような方も多いのではないかと思う。こうした農地を整備して大規模な営農ができるような仕組みを整備し、法人などで営農してはどうかと思う。
相続により農地保有者となり「ゆいにしはる」や親戚等に耕作を委託していますが、将来どうしたら良いのか、常に気にかかっています。農業者でないので満足な回答ができず、申し訳ありません。
先祖よりの土地を受け継いだというだけで、私は農業をしていませんし、農業のこともしりません。お役にたてない、無責任な回答となってしまいました。
先祖伝来の土地なので管理を他人に依頼してでも守って行きたいと考える
専業農家では生活できない状態です。社会が大きく変化している。次世代の人々は給料を求めて第二種兼業農家となり老人だけが野良仕事。1.5町歩から2町歩の家が1番危険状態と思います
専業農家だったが代がかわり兼業農家として耕作は一部行っているが、現代の機会化による営農は、これからは実施できない（投資できない）。いままでの耕作の委託を続けることになると思う。
専業と兼業の農地比や農家戸数比また、収入（所得）比など伊那市における農業の位置づけをわかりやすく図等使って表していただきたい。農業やってる人、やってない人の比率なども含め、アンケートの前提として示していただけると良いと思います。
西部山麓地域で野菜や果樹に対する獣害の増加が予想されるが、獣害防止の施設（例えば電柵）をするために補助申請をしても、すぐに補助されず書類手続き（相見積などを含む）をしている間に被害が進み、実施できたころには補助額より被害額のほうが何倍にもなるため、見送らざるを得ない。切迫した被害には対応できない。早急に対応できる仕組みにしてほしい。

<p>成年後継人ではありますが、農地・農業に関して今後、どうすべきか悩みの種です。もちろん自営は不可能で管理の方法に迷ってます。</p>
<p>菅首相も地方の活性化を主張しています。長野県は教育県として有名です。農業を活かした子供の教育ができるような環境が整えられれば結構ですね！</p>
<p>数件でトラクターを共有しているが古くなり買い替えに負担がかかるので次の代のものが困っている。全部自家用のものなので農業収入がない。土地が少ない程、負担が重い。</p>
<p>水路・草刈り作業・水路当番など、貸付しているので作業にでていくことや水路役員などが苦痛である</p>
<p>小規模農業では利益は望めない。農振がかかっているので売却もできない。宅地として高く売れない。この地域では農業を一生懸命にやる人はいないので農振を外してほしい。</p>
<p>小規模農業者への補助金の制定（農業所得だけで機械を入れることが難しいため、離農者が増えていく）</p>
<p>準中山間地、耕地の対策を！・・・土地の広い、変形耕地等、生活環境対策としても対策・対応されたい！</p>
<p>受益面積が少しでも対象となる土地改良事業に補助できる制度を新設してほしい。</p>
<p>住宅地内の小面積（10a以下）の荒廃対策を立案してほしい。</p>
<p>地元の農業法人を見ても作業を行う人手が不足している問題、そばをはじめ出荷物の価格の低迷により、中山間地・条件の悪い土地の受委託を制限しているように思います。我々50～60代でも土地を貸している人が多く、農業に関心がありません。10年後20年後農地が守られていくか心配です。農業法人・認定農業者に農地を守ってもらえるよう今以上の手厚農業支援をお願いします。</p>
<p>自分はもう農業できない。機械もない。全んど委託し管理してもらっています。今後も農業は行う予定はないので農地の処分を考えます。（持っているだけで管理費、税金がかかっているの）</p>
<p>自分の場合、農業で生計を立てるのは無理であるが、健康な内は農地を管理したいと思っている。それがいつまでか、その後はどうしたらよいか不安なこともあります。</p>
<p>自分では農業はできないので、農業法人等でやってもらえる体制を構築してほしい。特に市等で相談にのってもらい手続きをしやすくし推進してください。昨年10月頃農業法人に手続きしたのですが、その後現在までの連絡もなく不安になっている。</p>
<p>市内のあらゆる所が後継者がなく。。。仕方なく農業放棄地になっているのが日に日に目にして、我が家でも直面している現状ですので早急に良案を考慮して対策を示してください。</p>
<p>しっかり勉強をして資格をとったり就職した方が高収入が手に入れられる。皆農業をやめようと思うのは当然かもしれない。</p>
<p>時代の流れに沿った農業、はたして米はいつまで</p>
<p>昨年12/1に宅地及び家屋を売却しました。（まだ登記手続きは終わっておりません）近隣の畑も処分したかったのですが、農業振興地域に入るため、処分できませんでした。解決方法をお教えいただければ幸いです。</p>
<p>今後農業は最も大切な事業であると思います。圃場整備など土地の形状変更による農地の集約化や機械化による効率化を求める農業は、前時代的であると思う（一部は必要）災害などの問題がなければ土地をあるがままの状態でのどのように活かして農業をおこなうかを考えることが大切と感じる。（特徴のある農業）もっと誰でも自由に農業に参加できる体制をつくる必要があります。（農地法、農振に関する法律など廃止を含めて考える）</p>
<p>米価は低下し他の肥料・除草剤等値上がりしているのととても採算がとれない。</p>

<p>これまで安易に農振除外や農地転用が行われてきた結果、農業はますますやりづらくなっていると感じている。一方で、人口の減少により空き家は増加しており、中心市街地の空洞化やスプロール化による行政コスト増等、総合的に考えるべきでは。</p>
<p>これからの農業は生産だけでなく付加価値をつけて特産品として販売して、農家の収入upに力をいれていてもらいたい。</p>
<p>米作が一番作業行効率が良いので野菜を作るのは限られた家だけである。地方においては過剰な農地というほかない。</p>
<p>米が安く、生活できない。コロナで米価が下がっている。農家にも保障してほしい。</p>
<p>田んぼは息子が勤めながら田植えをします。水見は私です。畑の野菜作りは私です。近くの人々の田を80aと少し多く作り、遠くの田はそば等作ってなんとかやっています。私が元気ですので主人は病気気味で手がかかります。</p>
<p>この調査は回答者に対してどの様に還元されるのですか？</p>
<p>子供のころから農業に愛着心を植え付ける教育をするよう心がけるとともに、学校での食育教育をすることです。日焼けし黒い肌と土の付いた作業着を汚いと思う気持ちを捨てさせ、食べ物のためだと教育することです。テレビなどで人間が苦勞せず生活していけるような洗脳をうけてしまっています。</p>
<p>子供2人(男)は埼玉に在住しているため意見をきいてもはっきりしない。返答が得られない。</p>
<p>高齢につき耕作が困難です。</p>
<p>高付加価値農作物・白小豆・桜・花・葉の奨励育成を望む。</p>
<p>公的機関にかかわる優良農地（農業振興地域）の転用について特に留意いただき扱われたい。</p>
<p>耕作面積は少ししかありません</p>
<p>耕作放棄地を畑としていつでも使用できるように、草刈機やモアアなどを用いて手助けができたかと考えています。伊那市で間に合っていたらと思います。</p>
<p>耕作放棄地の増加＝企業誘致の考えには反対。景観、企業からの公害により自然が損なわれる。荒廃した土地はできるだけ自然を残す形で策を考えるべき。農業地域は農業地域として存続する努力をすべきと考える。</p>
<p>後継者なし。本人のできる時までと思う。受託して耕作してくれる人がいればお願いしたい。</p>
<p>後継者なく離農したい。そのため農地売却</p>
<p>後継者を孫にしているので会社務めが終わったら農業をやってみたいと思ってる。</p>
<p>子・孫が活用できればと相続した土地ですが、誰も農業をすることがなさそうです。人に頼んで耕作してもらってますが、高齢化を考えると私の生きているうちに何とかしなければと悩んでおります。この調査にお応えすることのできないヶ所も多く、申し訳ありません。農地や自然が残る、伊那市であって欲しいと、無責任ですが思っております。</p>
<p>現実に耕作していない人の方が多くいなのに、水利費・固定資産税等が昔のまま。課金のあり方や集金方法（振り込等）を工夫すべきだと思う。農協でも会社でも良いと思うが、形態にとらわれず実態に合った形で集積を行うことが、里山景観の保護との両立の面でも有効と思う。</p>
<p>現在は東京に住み自宅は貸し出しています。田畑は一部だけを貸しており、他は耕作はおこなっていません。</p>
<p>現在は地域の一部の人により農地を維持しているが、だんだん高齢化すると後に続く人がいない状況です。組織化して農地を維持していかないと近いうちに耕作放棄地ばかりになり、農業振興はできないと思います。</p>

<p>現在畑は10a自作していますが田と一部畑は近所の方に耕作して頂いております。</p>
<p>現在は相続した農地はほとんど法人かJAさんなどで作ってもらってますが後継者もおらず女手なので将来的には農地は手放したいです。（正直困ってます）若い方たちが稼げるようにしていけば農業も発展していくと思います。農地の売買ができなければ耕作放棄になっても仕方ないと思います。</p>
<p>現在80%以上の土地をJA上伊那を通して、借受人様に耕作して頂き、残りは自分で野菜を作っています。耕作地を残すという意味では、良い関係であると思います。農業振興地域をはずれた場合、都市計画地域の指定となり、相続税の課税評価額が高くなり（周比率）、都市計画地域内での農業の継続は難しくなると思います。逆に農業振興地域においては、名義変更など、制約が厳しすぎると思います。</p>
<p>現在、補助金などは20ha以上や法人のみ対応で小規模農家はまったく除外。設備投資は大規模も小規模も同様！小規模でも補助金制度が可能になればよいと思います！</p>
<p>国の補助で大きな圃場整備を行い地域で作業員を確保して会社経営にして給料を払うように地域の人を使ってる。</p>
<p>具合が悪く入院しているのでわからない</p>
<p>居住地は農振地区外で農地は地区外の東春近のため農事組合法人、認定農業者に貸与してあるので辻褄の合わない答となってしまいました。</p>
<p>休耕農地を農地以外の利用（大きな建築物や太陽光発電等）にむやみに促進するのは賛成できない。市として景観や後世への利用を考え主導お願いしたい。</p>
<p>急傾斜地で農振地区指定されている地域があります。農業不適切地は地区の希望により農振を解除願います</p>
<p>きびしい農業経営が続く、行政を上げて農業全体を考えてほしい。</p>
<p>借りて農業をやってくれる人を応援してやってほしい。貸してやっているのもその人が出来ないと言われると困るのです。</p>
<p>株式会社等の企業が農地を取得し、農作物の生産・販売を行うようにならなければ荒廃地の拡大が続くと思われる。</p>
<p>伊那市を離れてもう40年になってしまいました。この40年の間に父から相続した農地は宅地になってしまい、農地の方が肩身が狭い状況です。営利を目標とする農業は大規模化しか方法はないと思います。しかし、私が所有する歯抜けになってしまった農地は生活を楽しむ場として、周辺の住人がうまく利用してくれればとよく思います。年を取ったら土いじりがボケには一番いい薬だなと思いますが、伊那市の方はあまりする方がないようで、「貸して」と言う方はあまりありません。農業つき民泊等、目の前の畑でとった野菜食べるような観光も、信州大学と相談して考えてください。あまり参考にならぬとは思いますがかいてみました。</p>
<p>親の遺産相続の土地であり、弟に管理を任せているため、何の情報ももたないまま所有者となっています。調査に答えられない状態であり申し訳なく思います。</p>
<p>お米は国内販売だけでなく、海外販路をすることも視野に販売経路を研究してほしい。県内米農家で15年くらい前にこしひかり米が多く売れている農家の募集（海外向け）がありましたが、今は定かではありませんが・・・</p>
<p>遠隔地につきわからないことが多いので、的外れの解答がありましたらお許し下さい。</p>
<p>永年貸付していた水田が返されることになり、他の借り手もなく困っています。当方農業用機械もないことと、体力も劣え耕作放棄地になることと思われま。耕作者を探していただきたい。</p>
<p>上の段の田の管理が大変なので買い手があれば手放したい。</p>
<p>いろいろと悩んでいます。</p>
<p>今現実の作付けでは赤字です。（肥料・農薬の高騰）JA資材東部が移転して調達に時間を要す</p>

色々お世話になっております。里の田畑はわずかですが、今は他の方に利用して頂いております。先祖の方が苦勞して残してくださった大切な土地。信州の美しい風景を衰退することなく、若い方が夢をもって楽しく作物、花、果物を作って行ってくださる事願っています。
今、ひきついでいる農業を続けていきたいが、機械のメンテナンスに金がかかるのでその補助があるとほんとうにありがたいし、新しい機械を買う補助があると本当にありがたいです。やる気はまだあります。
伊那の農作物は、南アルプス・中央アルプスの間に存在している立地上の好条件があるため、高品質になりやすいものと思っています。従って農業への支援は重要なものと考えています。可能な限り支援したいです。
伊那市民で自給の野菜などを自分で作りたい人に分割して貸しても良いと考えている。希望者がいれば受け入れるつもりでいる。返信大変遅れて申し訳ございません。元気で耕作しています。
伊那市発展のため県道添いバイパス2枚通りを農振地区より除外をすべきと思う
伊那市の農業の実状を十分知りませんので、このアンケートに参加する資格がないかもしれません。私のレベルで判断して記入しました。
伊那市農業振興地域整備計画の見直しの対象となっている土地の所在がわかりませんので、わかる範囲での解答になります。
伊那市政としての農業振興政策についての取組実態、計画について研究していきたい。
稲作をやめ田を野菜作りのために貸しているのですが、賦課金が賃貸を大変オーバーして困っています。何とかならないでしょうか。また、太陽光発電のような再生産可能エネルギーをつくる方向を考えても良いと思います。
移住、定住促進事業の推進と新規就農希望者への支援をむすびつけていけないでしょうか？
家に農地をする者がいないので約1haの土地をまとめて他人に売りたい。
ある程度の支援・保護をしていくことが必要だと思います
あと取りが会社勤めでいますが、あとを継いで自立した経営ができる売上が確保が難しい状態です。地域ごとに多様な取り組みを考えてほしい。
あと10年もすれば、農業をする若者と農業者がいなくなる。基盤整備事業を進め、60馬力以上の大型機械、ドローン等を導入して「なにしろ薬存農業」を目指す。スマート農業は必要ですが、大型トラクターで一直線に畝を立てをする。方向回転は作業者の手、今農業者がもめている技術と少しかけ離れている。
父の生前中は私は会社勤めをしており土日以外は農業をあまりしていなかった。いろんな資料が来てもわからないことが多々あります。
30ha～50haに土地を集める（2ha～5haに整備する）。空屋を貸す。大型機械をリースする。低金利の借入が簡単にできるようにする。等すれば農地を借りる人が来ると思う。
①時間を有効に使用できる農業をめざす時に、農作地がまとまっていることが求められる→集中型農業②専業で農業経営をする為にはある程度の規模が必要であるが①を求めた時に規模拡大は難しい③兼業農家は減少傾向にあると思われるが、常に一定数はありそれらの農家が伊那市の農業を背負って行くと思われる。
153バイパスに道の駅をつくること（六道原に）
153号線道路開通しても三峰川沿岸の農業振興地域を守って川下米産地をこれ以上少なくしないようお願いしたい。
10年後でなければ何ともいえません
●経費がかかり利益がない●機械、肥料農業品が高い●拡大すれば赤字が多くなる

1.農業を観光化させ、域外例えば北海道東南アジア等から人を招く。→人口増 2.信大農学部とタイアップし伊那の農業地などを北海道の牧草地帯・美瑛化していく努力を。いずれにしても他地方からの域外流入をはかり農業従事人口を増やしていくことが必要と思う。

●昔よりの因縁によりどういうことか宗教法人であるのに田地を持っている●耕作面積が1反歩（2筆）以下なので農家の付き合いが困っています。例：水利関係の補修・農業関係の役員当番

●農業者が高齢化し維持管理が難しくなってきた●荒廃地を地区の法人、認定農業者に管理してほしいが、作業性が悪い（大型トラクター等機械が入る道が狭く面積も小さいため補助金等で圃場整備も必要ではないかと思う）●役所が指導してほしい

●農業機械が専用が多く、年間に数日か数時間の使用で高価部品が製造中止が多い。農機具店の出張費など高い●農薬が高い、これは登録料が高いためとか、開発費なら仕方ないが国でなんとかしてほしい●農家は草を刈っても消毒をしてもただ働き、何か方法はないでしょうか。経費（税で）76歳なので無理はできません。

●日本の農業には未来がありません。生産者は収穫しても市場ではまるで安くたたかれるし米価も安くて・・・これでは農業者は減る一方です。もっと国が力を入れて農民を守ってほしいです。

●西箕輪・南箕輪村の境界線周辺で耕作していますが、担い手確保・経営強化支援事業が使えません。融通をきかせてもらう等の対応をしてもらいたいです。●圃場を探していますが、貸借できる圃場をお願いします。

●勤めながらの農業には限界があると共に農地を守るのに必死です。●定年後の年代層の方々も地域の農業というよりはゴルフや趣味余暇に忙しく魅力のある農業を実現していくには程遠いです。●集落営農・機械組合も60代の年代層の方々の力を借りなければ70代の後半の方々の活躍も先が見えています。●兼業農家で若い世代から農業に取り組む喜びや大切さを知る機会仲間作りができればみんなで守るという気持ちが生まれるのではないのでしょうか。

●地区の農振センターを、もっとわかりやすくして、今後の方向を示し、話し合いをもってほしい。●アンケートの結果を開示し具体的な改善案をしめてほしい。

●貸借システムが変動してしまい理解できない●貸したい希望をしても意味がない●農地があるだけで苦労しかない●就農者ですら水稻はやりたがらない。借りてくれない。借り手には補助金などでサポートほしい。

●食の安全保障にしっかり取り組んでほしい（自給自足、国内農業は補助金を出しても守るべき。一度農地から転用された土地を再び農地に戻すことはとても大変なこと。多様な種を守っていくことが大切。子供たちが農業を体験できる機会を更に増やしてほしい●農業や除草剤使用により生態系が破壊されている。有機、低農薬農業へ転換できるよう支援してほしい。喫賢の課題：国の農薬認可基準が緩んでいることが心配です。

●高齢化、少子化により、農業後継者の減少のみならず、農地の相続人がいない家庭が増大すると考えます。（我が家があとはいくらあります）このままでは放棄地になってしまいます。●個別に農地を売却しようにも買い手がない状況なので、企業の参入を解禁するなどして、売却しやすい環境を作ってほしい。●田んぼ1枚当たりの面積が小さくて、効率が悪いので農地整備・規模拡大が必要と考える。

●耕作放棄地が増えても個人の自由と考えます●御園のアクセス道路沿いを農振から外してほしい●個人の土地に制限をかけるのはおかしい。

●現在は全部貸していて実際には耕作していない●定年帰農も考えているが、実際には機械がなく農業機械も高額のため就農可能な状況ではない●農業機械を貸与していただけたらありがたい（現状は難しい）

●近年小動物の被害が拡大している、特にハクビシン、キツネ、スズメ、カラス●天気の異常現象により作物の倒伏

●休耕中であり草取り（トラクター処理）が大変である（年3回程度）●不要の田畑を処理する法が必要と思う。●処理する法が知りたい

●アイターンで転入した方が、農業にチャレンジしたものの、断念したという話を聞いた事があります。新規就農の方への支援が必要かと考えます。（個人経営、農協に入らず孤独に農業を営む方）●コロナの影響で田舎へ移住に注目が集まっています。畑付きの空き家、観光用施設（自炊ホテル・キャンプ場）を販売促進し、自給自足生活の推進も良いかと思えます（都会の方に向け）●農協に出荷する作物は低価格で、米も上伊那米として一括されてしまいます。川下り米、田原米の価格を高め、販路を広げてほしいです。出荷のためのコスト計算等、農協の方式に関し、行政も丸投げではなく実態をご確認いただきたいです。

●88歳高齢のため畑地は若手農業者に耕作してもらった。●水田は長男耕作するが何年できるか心配。

●3代～以上続く農業（所得の安定）●農業に頼らない農業●持久率（自給率??）を上げる●魅力をPRする

農業規模拡大したいので、私の農事組合法人大盛堂生産農場で4ha～5haほど農地拡大したい

農家が生きていく為には すべてにおいて規模拡大、大量生産、大型農機の導入、スマート農業の導入による少人数作業での合理化が必要だと思います。今の政策は専業農家が農業で生き残る為の最善の方策だと思いますが、でも同じ作物では海外の大規模農家と対等に価格競争するには日本の国土では無理がある。完全自由化になれば価格面では到底たちうちはできないと思います。主食の米、小麦の栽培する土地の面積の広さ比べ物になりません。小麦の連作障害回避の為2～3年土地を寝かせておくような（何も作らない）人たちはとても太刀打ちできない。カンントリーエレバーターの大きさ農機具の大きさを見ても日本の主要作物で商売としての農業はやる気も起きないでしょう（補助金が有るから作る）農機具も軽トラと大型トラック程の違いがあります。日本のこれからの農家は補助金だよりだと思います。食糧安全保障の観点からは補助金出して日本の農業守ることは大事だと思いますが、復興税やコロナ禍でばらまいたお金、今後税金として徴収されるでしょう。農家への補助金見直しもされるでしょう。現在東春近地区の東原で圃場整備の話がありますがごく一部の方及び法人などの組織の方の意見で、今のままの圃場の大きさでは「作り手がいない」などと言って一部の方だけで話を進めています。畑作なら石の無い土地ですので、境をハッキリしておけば畔を崩して畑なら耕作できます。水田では基盤整備しないと田にはなりません、東原の米は不味くて自家用として栽培する方はほとんどいません。モチ米、加工モチの栽培をしていますが、コメ余りになり三峰川、天龍川沿岸でモチ作ったら東原の米は売れません。JAでは三峰川、天龍川沿岸でのモチ栽培を禁止しています。上の段の赤土で作った米の買い手が付かないことを心配してかと思えます。伊那市の土地で米以外付加価値のある作物（野菜）何が有りますか？人を雇用し冬季間は休みにして経営は成り立たないです。国道バイパスも通ることが決まったようです。東原の土地利用はもっと多角的に考えた方が良いかと思えます。国・県や市の補助金で圃場整備したら土地利用が制限され、これからの発展に不利になると思えます。何百年に一度と言われる災害が数十年に一度の割合になってきています。大雨と地震同時災害が起きた時など、東原は宅地としてとても安全な場所です、道沿いに商業施設、工場などが出来れば地区が過疎化していくのではなく発展してくかと思えます。農業人口がますます減っていく中で又米余りで大規模で野菜作りは人手がなく冬季間の仕事もない。そんな中で今どき圃場整備にお金を出すのは考え物だと思います。東原地区も現所維持で必要なら水路のみの回収で付ける予算が有ったら三峰川上流のダム建設に予算を充てたほうが伊那市の市民の為になると思います。